

ラブドガン



04/1 1h51
 監督 渡辺謙作
 脚本 永瀬正敏 / 宮崎あおい / 新井浩文 / 岸部一徳

撃つ人間の感情によって、銃弾は色を変える。悲しみの青、憎しみの黒、怯えの黄色。そして伝説の赤の銃弾。さすらいの殺し屋、その師匠で彼を殺した行く初老の殺し屋。未来をとり戻そうとする少女に未来しが持っていないような若造。それだけが対峙した時、放たれた銃弾の色は!? 答えは 赤い拳銃 だけが知っている...

パリ・ルーヴル美術館の秘密



90/仏 1h25
 監督 ニコラ・フィリベール
 脚本 ルーブル美術館 / フランス外務省

最優秀ヨーロッパフィルム・フェスティバル賞

M・ムーアとともに今、最も注目のドキュメンタリー作家のニコラ・フィリベール！彼が追うのは世界最大の美術館ルーブル。完全な美しさを誇る美術品と、それを守る人間たちを暖かく入念に、ユーモラスな視点でとらえる。この人たちに支えられて私達は美術品を堪能できるのだ。さあ、生きたルーブルにGO。

機関車先生



04/日 2h03
 監督 岡木隆一 / 伊集院静
 脚本 坂口憲二 / 倍賞美津子
 大塚寧々 / 伊武雅刀 / 堺正章

瀬戸内海の小さな島に口のきけない先生がやってくる。はじめは驚く生徒たちだが、「口をきかんせんせい?じゃあ機関車先生や!」とすぐに迎え入れる。戦争の傷跡、海難事故、父親の死など哀しい出来事に見舞われながらも、先生と過ごすうちに子供たちは本当に大切なものとは何か、人間の強さとは何かを学んでゆく。

天国の青い蝶



04/加 = 英 1h36
 監督 レア・プール
 脚本 ウィリアム・ハート / バスカル・プジェール
 マーク・ドネイト / ラオール・トゥルビロ

生命の神秘に満ちた熱帯雨林の奥地に生息する美しい青い蝶、ブルーモルフォ。憧れのその蝶に触れることが余命わずかな少年の願いだっただ。昆虫学者と少年の母親は彼の切ない夢を叶えるため、危険なジャングルへと彼とともに旅立つ。そこに待っていたのは彼らすべての人生を変えてしまう美しい 奇跡 だった。

キャンプ



03/米 1h51
 監督 トッド・グラフ
 脚本 エニエル・リタール / ジョアナ・チルコート

サダクス・フィルム・フェスティバル2003正出品

俳優養成のためのサマーキャンプに集まってきたのは、ゲイのマイケルをはじめ落ちこぼれて個性的な面々。けど、誰よりもミュージカルを愛する彼らは、つまずきながらも自分たちの進むべき道をしっかり歩み始めるのだ。主演者たちも一般公募で集まった俳優の卵たち。彼らの興奮や恋いが等身大に響いてきます!!

「ラブドガン」渡辺謙作監督

がフォーラムにやってくる!!
 10/2(土)初日1回目の上映は渡辺監督のトーク付上映。近日前売発売開始!!(定員制)くわしくはチラシ・HPなどで。

社員・準社員募集!

条件...映画と仕事の
 大好きな方

3年以内に支配人に登用できるくらいの実力と情熱を持った人材を求めています。
 履歴書と論文「私がフォーラムで送りたいこと」(600字)をお送り下さい。
 書類選考の上、面接日をお知らせします。

この秋は、日本全国で山形弁の映画が上映される。9月11日からの「スウィングガールズ」と10月30日からの「隠し剣鬼の爪」である。そしてこの2作品に共通するのは登場人物のほとんど全員が山形弁を話し、それを美しく歌い上げているということだ。映画の作り手たちの、ことばへのこだわりが、出演者たちに美しくして完全な山形弁を話させている。
 これまで、映画の中の山形弁は、美しくもカッコンな映画が作られた。10数年前、「やがて春」という教育児童映画が作られた。山形弁を話す転校生がいじめに合う話である。父親役がケイシー・高峰で、最上弁を話し、母親役があき竹城で米沢弁を話し、その子供役の方言指導をしたのが温海町出身の方だった。その子供は庄内弁を話すという、とっついても変わったも変な家族だった。それでも映画は感動的だったが、その山形弁は、美しくもなく、誇らしくも思えなかった。
 その他の映画では、たくさんの登場人物の中でたつたひとり、誰にも通じないまま山形弁を話すというのがほとんどで、これまでの映画の中の山形弁はほとんど被差別言語に近い扱いを受けてきたというのが実感である。
 たそがれ清兵衛 は藤沢周平さんの原作では庄内藩をモデルにした海坂藩ということにはなっていないが、庄内弁を語らせたのは脚本・監督の山田洋次さんだ。藤沢周平シリーズ第2作である「隠し剣鬼の爪」では「たそがれ清兵衛」以上に庄内弁への取り組みに熱が入っている。
 「スウィングガールズ」は、ロケハンの時、高校生の話す置賜弁の美しさに惹かれてロケ地に決定したという監督のこだわりが、みごとに花開いた映画だ。出演者たちがこの映画の出演がまっすぐから特別を重ねたのがジャズのアレンジメントと置賜弁。試写を見た人たちが、地元出身のエキストラと間違えるほど完全な置賜弁が飛びかう。それでいて映画は、前作の「ウオーターボーイズ」よりさらに面白く出たのだから、観終わって誰でもスウィングしたくなる。「ウオーターボーイズ」上映の翌年は水泳部入部希望者が増加したというから、来年は吹奏楽部の入部希望者激増で楽器が足りない!とつれい悲鳴が上がりそう。
 そしてこの2本の山形映画の大ヒットで、山形弁が日本中で大流行なんてのもいいですね。何しろ、この映画は、見たあと、山形弁で話してみたくなる映画なので、中高生を始め、山形の若者には全員に見ていただきたいということで、山形県内共通有効の割引券を広く配布することになりました。自分のまわりの方々にすすめていただけるといいです。お近くの劇場までお申し込み下さい。人数分の割引券を差し上げます。(フォーラム&ソラリス 代表 長澤裕二)